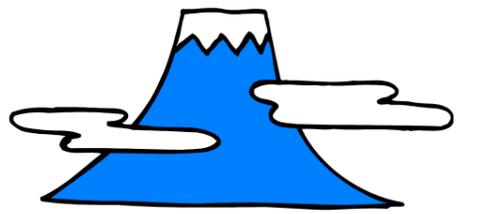


# ほつぷ つぷ じやんぷ

特訓進学塾

## 名教



### 2013年度版 第4号

2013年7月22日(月)  
名古屋教育文化センター

塾長コラム

# あんぱんち

第三十七回

暑い日が続きます。いたるところで言われることです。対策をしっかりとって、乗り切りたいものです。塾では、夏特訓が始まります。今年も、歴の関係でいつもより1週間程度長い夏特訓です。私たちも、精一杯努めます。子どもたちには、それぞれの目標に向けて、しっかりと取り組むことを期待します。

ところで、地元名古屋の大変残念なニュースが、飛び込んできました。南区で中学二年の男子生徒がマンションから転落死した問題です。心が痛みます。南区の男子生徒が死の直前に「いろんな人から『死ね』と言われた」などと書き残したメモを読みました。大変残念なことです。が、塾の教室でも、「死ね」と口癖のように言う子が、小中学生と問わず複数います。大変恥ずかしい話ですが、小学一年生の愚息が、入学直後、家庭内で兄に向かって言うことがありました。言っている本人がその言葉の重さを考えていないことが多いような気がします。相手のことを嫌だとは思っていないまでも、軽い気持ちで言うことが多くあります。ただ、言葉の重さや相手の気持ちを考えていないことが問題なんだと私は考えています。だから、私は、厳しく注意をするようにしています。いじめがいじめになる前に摘んでおきたいと思うからです。

さて、先週、住んでいる地域の「いじめ・問題行動等防止対策連絡会議」という集まりに、依頼されて出席し

てきました。小中学校の先生、警察、補導委員や民生委員など学区の役職者、保護者の代表が集まる場でした。

いじめに限らず、不登校の事例、少年が検挙された事件、深夜徘徊などによる補導などの事例について、出席者で情報交換をしました。南区の出来事は、大きくマスコミ報道をされていますが、他にも、この1学期の間に起きた事例が、大きなことから小さなことまでありました。幸い有事には至らず、学校や警察で適切に処理されたので、少し安心できました。私も、学校や公園、塾で、子どもたちと接していて感じることを現場の意見として話し、「大人たちがみんなで見守っているんだ」とアンテナをしっかりと張りましょうと呼びかけてきました。皆様も、機会があれば、お住まいの地域の同じような集まりに参加されたり、お話を聞かれたりするのいいと思います。必要なときには、連携して子どもたちを守りたいものです。

いじめの問題は、ずっと言われていることです。私も、子どもたちが集まる場に身をおく者として、避けてはいけない問題と考え、今でも勉強を重ねる分野です。高校生が、いじめ問題に詳しい「尾木ママ」こと教育評論家の尾木直樹さんに依頼し、講演会を開いたそうです。依頼者の高校三年生の生徒が、「尾木さんのようにいじめに関心のある大人と私たちが話を重ねることが、解決法を見つけ出す一歩になると実感した」と話していたことが印象的です。大人への警鐘ですね。自分の子どもだけでなく、私たちに関係するすべての子どもたちが、被害者にも加害者にもなる可能性があります。心が痛む、気の重い問題ですが、きちんと向き合っていこうと思います。皆様におかれましても、お気づきの点がありましたら、ぜひ、教えてください。

塾長 西川 陽祐

## 今月の学問のすすめ

《もとの文》

言葉をもつて述べれば

これを了解するの易くして、

人を感じしむるものあり

《今のごとばでいうと》

しっかりと言葉にして話す、

わかりやすいし、人の心をう

こかすものなんだよ。

いいたいことをまとめて

一分でいえるようにしよう

昔の日本人はペラペラしゃべるより、だまつているほうがえらいと思っていました。だからおおぜいの人の前で自分の意見を言う「スピーチ」(演説)というものがなかったんだよ。

でも世界の人たちとつきあうには、自分の意見をちゃんとこのことがとてもだいじだよ。そこで論吉先生は演説を練習する建物を大学の中につくって、みんな練習したんです。

ぼくも、みなさんに「一分スピーチ」をすすめます。まず何をいいたいのか、いいたいことを一つきめよう。そして最初に「これから、これこれについてお話しします」と、それを話してしまうんだ。

そして最後に、もう一度そのいいたいことをくり返して、「だからこれこれがいいと思います」というふうにしめくくると、わかりやすいよ。

途中には、「なぜそう考えたか」「なぜそれがだいじか」、話のポイントをつたか三つ、入れておきます。ポイントは多くても三つまでにとどめておきましょう。「だいじなポイントは二つあります。一にこれ、二にこれ。だから、こうです。」という、一分の中にきちんといいたいことがおさまります。これとこれを話そう、というメモをつくっておくといいと思います。

それから話すときは、必ず相手のほうをみて、ゆっくり深呼吸をして、みんなをみわたすようなかんじで話す。二、三人、やさしそうな人をみつけて、その人たちの順番にみながら話してみるのもいいかもしれないね。

はずかしがるのが一番いけないから、大きな声ではっきりいおうね。演説はなれば、だれでもうまくなりま

す。最初はアニメの番組でもいいから、あらすじを三〇秒でぱつといえるように練習してみるといいんじゃないかな。

『子ども「学問のすすめ」(齋藤孝著 筑摩書房、2011年11月30日発行)』

## 「あたりまえだけど、とても大切なこと」

子どものためのルールブック

ルール 46

人間はまちがいをおかすものであることを受け入れよう。そのうえで、まちがいから学んで先に進もう。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

～子どものためのルールブック～

(ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社)より